

伊予消防管内で発生した、住宅用火災警報器の奏功事例を紹介します。

番号	建物概要	発生場所	焼損程度	出火原因	概要等
1	木造平屋建て (共同住宅)	台所	非火災	ガスこんろ (消し忘れ)	ガスこんろの火をつけたまま来客の対応をしていたところ、台所西側の寝室に設置していた、住宅用火災警報器の警報が突然鳴りだした。 台所に戻ってみると火にかけていた鍋が焦げており、ガスこんろの火を消し、火災には至らなかった。
2	鉄筋コンクリート造4階建て (共同住宅)	台所	非火災	ガスこんろ (消し忘れ)	ガスこんろで鍋を温めなおすため火をつけたが、消し忘れて出勤してしまった。 屋外にいた付近住民が、住宅用火災警報器の警報音と屋外に流出した、煙に気づき119番通報した。
3	準耐火建築物 2階建て (共同住宅)	台所	非火災	電子レンジ (過熱)	電子レンジでご飯を温めていたところ、過熱しすぎたため居室内に煙が充満し、住宅用火災警報器が発報した。 警報音に気付いた、住民がコンセントを抜くとともに、隣人に119番通報を依頼したもの。
4	鉄筋コンクリート造2階建て (専用住宅)	居室	火災(ぼや)	石油ストーブ	祖父が石油ストーブを使用中、カートリッジタンクを引き上げたところ、カートリッジタンクの蓋が外れ灯油が漏洩し、引火した。 2階にいた孫が、住宅用火災警報器の警報音に気付いて、1階に下りてみると、祖父の両足や壁と床が燃え上がっていたが、水バケツと消火器でなんとか消し止めた。
5	木造2階建て (専用住宅)	台所	火災(ぼや)	ガスこんろ (消し忘れ)	天ぷら油を凝固剤で固めるため、蓋を閉めて加熱していたところ、その場を離れて別の用事をしたことから忘れてしまい、過熱された天ぷら油が発煙したものの。 警報音に気づき台所に戻り、蓋を開けると炎が30cm程上がっていたが、濡れタオルによって消し止めた。
6	鉄筋コンクリート造4階建て (共同住宅)	台所	非火災	ガスこんろ (消し忘れ)	朝食を作るため、鍋を置きガスこんろに火をつけたが、そのまま外出してしまい、住宅用火災警報器が発報した。警報音に気づいた隣人が119番通報したものの。 鍋はベランダから進入した消防隊が流し台の水で消火した。